

山根一仁さん&上野通明さん応援レポート

フレッシュ名曲コンサート

目黒パーシモンホール春のコンサート

2016年3月12日(土) めぐろパーシモンホール

“20歳の2人による友情のドッペルコンチェルト”

めぐろパーシモンホール。移転した東京都立大学の跡地に建てられた、目黒区立のホールである。一帯は「めぐろ区民キャンパス」として活用されており、図書館や体育館などの施設も整備されている。

敷地内に入ると、光に照らされるガラス張りの建物。本日のコンサート会場は、抜群の音響性能により生の音を存分に味わえるとされるパーシモンホールの大ホール。定員1200名の大型ホールである。

このあたりは、かつて柿を積んだ荷車が行き交ったと言われる目黒区柿の木坂地区。その「柿」(英語:persimmon)にちなみ、「パーシモンホール」と名付けられている。

会場には、「実力派がひしめく若手演奏家のなかでも、特に注目を集める二人による競演。“20歳の2人による友情のドッペルコンツェルト”と書かれたポスターも。

山根さんと上野さんは、山下一史氏の指揮で、新日本フィルハーモニー交響楽団のみなさんと、ブラームスの「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲(ドッペルコンチェルト)」を演奏する。

ヴァイオリンとチェロの2台の弦楽器を独奏楽器とするドッペルコンチェルト、山根さんと上野さん、2人が希望しての選曲とのこと。「20歳という節目の年に、この曲を2人で演奏するのが楽しみです!」と、コメントをくれている。



2016年3月12日[土] 開場14:30 開演15:00
めぐろパーシモンホール 大ホール

チケットセンター
めぐろパーシモンホール チケットセンター
電話・部1 | TEL: 03-5701-2904 (10:00-19:00)
オンライン | <http://www.persimmon.or.jp> (24時間)
チケットぴあ <http://pia.jp>
TEL: 0570-02-9999 <http://pia.jp>
e-チケット <http://e-ticket.jp>
ローソンチケット
TEL: 0570-084-003 <http://t.ticket.com> コード: P35439
チケット発売日
2016年3月20日(水) 10:00

主催 | 公益財団法人目黒区立芸術文化振興財団 公益財団法人東京芸術文化振興財団 公益財団法人
協賛 | 目黒区 | 東京都立大学 | 目黒区民文化センター | 目黒区民文化センター | 目黒区民文化センター



めぐろパーシモンホール外観



ヴァイオリンとチェロの気迫こもった追い掛けあい



演奏会が始まる。

最初の曲はオーケストラによるベートーヴェンのバレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲。ティンパニの打音が勇壮にリズムカルに。

山根さんと上野さん登場。

ブラームスの「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」。

チェロのソロ、ヴァイオリンのソロ、2人で対話するかのように追い掛けあう旋律。丁寧に美しい調べが続く。大きい音の力強さ、弱い音のかぼそさも美しく。

牧歌的なゆったりとした旋律の第2楽章。融和するようなヴァイオリンとチェロの音色。第3楽章では、再び2つの楽器がメロディを追い掛ける。

時に挑発するかのように、のめりこんだかのような熱情ほとばしる演奏はもちろん、弓を上げるタイミングまで寸分たがわぬほどにぴったり。

2人の熱のこもった気迫あふれる演奏に圧倒される場内。ブラヴォーの声と鳴りやまぬ拍手。演奏を終えた2人は、マエストロ、コンサートマスターから賞賛をいただいたのち、2人で手を挙げて、若さたっぷりにがっちり握手。

アンコールに応じて弾いてくれたのは、シュルホフの「ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲より第2楽章」。

難しそうなお曲を軽快なテンポで奏でる2人の追い掛けあい。これまた迫力満点の演奏に割れんばかりの拍手が贈られた。

楽屋では、マエストロからも「素晴らしかった！本当に素晴らしかった！またぜひ何かやろう！」との熱きエール。

客席やホワイエでも、「すごかったわ～」「驚いた。2人ともまだ20歳ですって・・・」との声があちこちから聞かれた。



信頼するパートナーと今の自分たちの演奏を



楽屋で山根さんと上野さんに話を聞いた；

ー本日の演奏は？；

まずは「楽しかったです！」と充実の面持ちの2人。

山根さん：「以前からずっと2人でやりたいと思っていた曲でした。ヴァイオリストとチェリストだったら弾きたいと思う曲のひとつでもあります」

上野さん：「高校の時から一緒に弾きたいと話していた念願のドッペルだったので最高でした！」

ーお二人ともこの秋から留学されましたが、留学によって変化してきていることなどありますか？；

山根さん：「音楽に対する考え方が変わりました。横のラインというか、音楽の流れを考えることを意識して勉強しています。幼少期から身に付けてきたリズムカルな流れに加えて、横の流れを重んじていきたいと思っています」

上野さん：「意思のはっきりした演奏をすることを意識しながら学んでいます。先生がそういう個人的な方なので、そうした姿勢を身に付けたいと思っています」

終演後の楽屋には、たくさんのファンや友人知人の方々。2人は、ホール撤収時間が迫るまで、多くの方々に囲まれていた。

<演奏会概要>

◆出演

山下一史（指揮）

山根一仁（ヴァイオリン）

上野通明（チェロ）

新日本フィルハーモニー交響楽団（管弦楽）

◆プログラム

ベートーヴェン：バレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲 op.43

ブラームス：ヴァイオリンとチェロの為の二重協奏曲イ短調 op.102

ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 op.92

◆アンコール曲

シュルホフ：「ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲より第2楽章」

また、後日以下のようなレポートも届いた；

山根さん：「・・・以前から楽しみにしていた上野通明くんとブラームスのドッペルコンチェルト。これは本当に素晴らしいコンサートとなりました。お互いの持ち味を生かして2人のやりたいことを最大限に作品に注ぎ、指揮者やオーケストラとの駆け引きも楽しむことができました。20歳という年齢でこんなに信頼できるパートナーと大曲に臨めるということは本当に幸せなことだと思います。また演奏できることを切に願います」

上野さん：「・・・室内楽やデュオなど高校時代からいつも一緒にやってきた山根君と弾かせて頂きました！大好きなブラームスが唯一チェロとオーケストラが共演できるように書いた曲がこのドッペルコンチェルトで、高校時代からいつか弾きたいと思っており、弾くならぜひ二人で弾きたいと山根君と話していた曲なので本当に楽しみでした。山下先生率いる新日フィルの皆様や長年一緒にやってきた共演の山根君と、今の僕たちにしかできない精一杯エネルギーな演奏ができたと思います！二十歳の最高の思い出となり良い記念になりました。素晴らしい作品なので、これからも何度も演奏して自分の十八番にしていきたいです」

高校時代からの友人で、一緒に旅行に行く仲の2人、お互いがお互いを信頼し、リスペクトし、これから何度も息の合ったタッグを組んでいくのだろうなど、まぶしくさえた。

山根さん、上野さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！



【コンサート・フライヤー(表)】



マシュー・ヤン バレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲、ミニチュア
 エドワード・ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲、イ短調、ミヌエット
 マシュー・ヤン 交響曲第7番、イ長調、ミヌエット

指揮 山下 史 音楽家 新日本フィルハーモニー交響楽団
 ヴァーノン 山根 仁

チケット 上野通明 (東京文化芸術センター)

Meguro Persimmon Hall
 Spring Concert, 12th March 2016

フレッシユ名曲コンサート
 めぐるろパーシモンホール
 二つの若き感性が
 響きあう。
 春のコンサート

2016年3月12日[土] 開場14:30 開演15:00
 めぐるろパーシモンホール 大ホール

料金 S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 (税別)
 車椅子席4,000円 (税別)

学生割引は、各会場から900円引(車椅子席・学生割引はネットチケット
 にも適用)・割引は各会場・学生割引は、割引のチケットは購入時に各
 学が定める収入印紙を貼る必要があります。

お問い合わせ先
 めぐるろパーシモンホール
 東京都目黒区八雲1-1-1 東京文化芸術(東大)館101号室
 TEL 03-5701-2913
<http://www.persimmon.or.jp>

主催：公益財団法人財団法人東京文化芸術財団 公益財団法人東京文化芸術財団(東京文化会館)



チケット情報

めぐろパーシモンホール チケットセンター
 電話・窓口 | TEL 03-5701-2904 (10:00-19:00)
 オンライン | <http://www.persimmon.or.jp> (24時間)

チケットぴあ e+ (イープラス)
 TEL 0570-02-9999 <http://plaza.jp>
<http://pi.jp> Pコード 268-825

ローソンチケット
 TEL 0570-084-003
<http://t.tk.com> Lコード 35439

チケット発売日
 2015年9月30日(水) 10:00

主催協力：東京オペラシティ音楽協賛財団

【コンサート・フライヤー(裏)】



フレッシュ名曲コンサート めぐろパーシモンホール 春のコンサート

新進音楽家を起用し、気軽に身近な場所でクラシック音楽を楽しんでいただくことを目的として開催するフレッシュ名曲コンサート。

2010年中学校3年生で第79回日本音楽コンクールメダリスト・第1位の山根一仁、2009年13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールチェロ部門日本人初の優勝、2012年第10回東京音楽コンクール堂楽部門第2位の土野通明、共に学生と親友である二人の希望により今回共演した。ブチームスの二重協奏曲にご期待ください。

山下 史
Shimoda Shiro



2004年制琴学園大学卒業後、ベルギー国立大学に入学。60年フランクフルト国際指揮者コンクールで優勝。65年12月から3月のアムステルダムを拠点、ベルリン・フィラハーモニーで最初のコンサートを行い、その後もヨーロッパの代表としてコンサートなど「第一人」を数多く活躍。現在は、アンサンブル・コンセルト・バール・ゲスト・コンダクター、丸舞音楽団指揮者などを兼任。2002年2月大演奏家オーケストラ・オーストラリアの常任指揮者。08年4月より同団の首席指揮者。09年より和声・指揮者として選出され、先奏者や声楽（洗練の美声）などの演奏者を行くなど積極的な活動を展開。09年4月から12年5月まで同団首席指揮者。09年4月にはオーストラリア・メルボルンに招聘し、大成功を収めた。また、11年2月シエラレオネ・アフリカ「日本舞台音楽隊」の指揮者として、次期「次守物語」として、現在、オーストラリアの舞台において音楽的な成果を上げていく指揮者として、ますます注目を浴びている。東京藝術大学音楽学部指揮科特別教授。

写真 ©Kazuki Mizuo

山根 一仁
Yamane Kazunori



2005年生まれ。2010年、中学校3年生で第79回日本音楽コンクール第1位。レウカディア賞、法蘭西賞、東京賞、若竹賞(第1位)。並に全部門を制して第6回洗心音楽祭・作曲に輝かれる輝かしい演奏・作曲で中学生の5位は20年ぶり。以後、後白楽団、岸上楽団、朝日歌劇団、大塚洋人、高岡薫、江上洋一、清原和樹等各式のN響、新響、東日本フィルをはじめ国内外のオーケストラと共演を重ねる。ベルリン・フィル・ジュニア楽団、マチルデ・ワグネル・オーケストラの首席、トウバン・オーケストラ・オーストラリアNo.11に最年少で抜擢される等、注目を集めている。テレビ朝日「読者の心」音楽会) 等多数。第6回朝日文化賞賞状賞状後援賞賞状を最年少受賞。12年若竹賞子音文化賞奨励賞第2回(Foundation for Youth) 受賞。12年13年連続「ユース・ミュージック・ファンデーション」奨学生。第45回記念朝日奨学生。現在、制琴学園大学の音楽学部・オーストラリア・オーストラリア音楽奨励賞。これまでに東京音楽、水野浩太郎、加田幸一郎の各氏に師事。2015年10月よりドイツ・ミュンヘン音楽・演劇大学にてクリストフ・グッペンに師事。

写真 ©Kazuki Mizuo

土野 通明
Tsuchi No Tomonari



2009年13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクールにて日本人初の優勝。第6回ルーフィア国際音楽コンクール弦楽部門14歳最年少第1位、ルーフィア大賞受賞。ルーフィアラジオ交響楽団を暫くして後任。2012年第10回東京音楽コンクール堂楽部門第2位。2014年第21回オランダ・ブチームス国際音楽コンクール第1位。これまでに例日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ロシア交響楽団など国内外のオーケストラと多数共演。朝日KBSテレビ「クラシック・サマデー」、テレビ朝日「読者の心」音楽会)、NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHK-FM「イサイタム・ノック」に出演。若竹賞子音文化奨励賞第2回(Foundation for Youth) 受賞。第6回朝日奨学生賞(奨励賞) 受賞。日本芸術家奨励会(文芸部)奨励賞。ユース・ミュージック・ファンデーション、江原記念財団奨励賞。日本チャイコフ国際音楽祭賞と奨励賞。現在制琴学園大学音楽学部オーストラリア・オーストラリア全期奨励賞受賞。これまでに高島勲彦、イェルク・キエチュェトに師事。現在札幌市立音楽院に在籍。

写真 ©Mitsuki Hoshi



新日本フィルハーモニー交響楽団
New Japan Philharmonic

1972年指揮者・作曲家として渡日。1975年(自)渡日初の大規模なオーケストラとしてデビュー。オムニ・トリック・オーケストラ・本城島と共演。1978年、NHKに招聘された演奏活動も積極的。99年の演奏活動が指揮者に転じた。2005年〜2013年はタリシニア・オムニ・トリックが音楽監督を務めた。2010-2011シーズンはダニエル・バレンボイム「Music Patron of SO」を務めている。2013年9月から2年間、イェルク・キエチュェトがConductor in Residenceに就任した。受賞歴に「朝日文化賞(奨励賞)」、東京交響楽団、ユース・ミュージック・ファンデーションが音楽監督を務めた。この他2004年に音楽家・文化活動家として「新日本フィルハーモニー・オムニ・オーケストラ」で指揮者として活動している。NHK「下と上への神話」の「クラシックの楽」の「クラシックの楽」では音楽家として、2010年9月より「神話」が音楽監督に就任したことが話題。それに引き続き、2015年4月より「オムニ・トリック・オムニ・オーケストラ」に就任している。

1 オムニ・トリック

http://www.nippon.or.jp

写真 ©Kazuki Mizuo



ホールへのアクセス

めぐろパーシモンホール
〒152-0023 東京都目黒区八幡1-1-1
めぐろ区民センター内
TEL 03-6707-2913

●東京メトロ

「都立大駅」駅より徒歩1分

●東武バス

「めぐろ区民センター」下車すぐ

《路線1》目黒駅～都立大学センター

《路線2》目黒駅～都立大学センター

《路線3》目黒駅～都立大学センター

《路線4》都立大学駅～都立大学センター

《路線5》都立大学駅～都立大学センター

公演に関するご注意

- ・ヤシも席の厚さにより、公演中・演奏中での足元にも厚さがありますのでご了承ください。
- ・一度お求めいただいたチケットは、公演年よりの有効な券となります。
- ・未成年の方の入場・演奏にはご遠慮ください。
- ・お車庫の台数が少ないため、公共交通機関をご利用ください。

めぐろパーシモンホール・ウェブサイト

<http://www.persimmon.or.jp>

「パーシモンホール」

【お問い合わせ】

お問い合わせは下記までお願いいたします。公演の14日前までにご返信いたします。公演年よりの有効な券となります。

●お問い合わせ先：〒152-0023 東京都目黒区八幡1-1-1 めぐろ区民センター TEL 03-6707-2902



【コンサート・プログラム(表紙)】

フレッシュ名曲コンサート
めぐろパーシモンホール
二つの若き感性が
響きあう。
春のコンサート

「プロメテウスの創造物」序曲より
グリーグ「ヴァイオリンとチェロのための」重奏曲 イ短調
ベートーヴェン 交響曲第7番 イ長調

指揮 山下一史 新日本フィルハーモニー交響楽団
コンサートマスター 山根一仁
客員指揮 上野通明 (東京交響楽団)
客員指揮 上野通明 (東京交響楽団)

Nagano Performance Hall
Spring Concert, 12th March, 2016

2016年3月12日[土] 開演15:00
めぐろパーシモンホール 大ホール

主催 | 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 公益財団法人東京都歴史文化財団 (東京文化会館)
企画協賛 | 東京オーケストラ振替協同組合

【コンサート・プログラム(1ページ)】



フレッシュ名曲コンサート めぐろパーシモンホール 春のコンサート

指揮：山下一史

ヴァイオリン：山根一仁 チェロ：上野通明

管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

Program

ベートーヴェン

バレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲 op.43

ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 op.102

第1楽章 アレグロ イ短調

第2楽章 アンダンテ ニ長調

第3楽章 ヴィヴァーチェ・ノン・トロッポ イ短調

(休憩)

ベートーヴェン

交響曲第7番 イ長調 op.92

第1楽章 ポーコ・ソステヌートーヴィヴァーチェ イ長調

第2楽章 アレグレット イ短調

第3楽章 プレスト ヘ長調

第4楽章 アレグロ・コン・プリオ イ長調

Concept — フレッシュ名曲コンサートとは

公益財団法人東京歴史文化財団(東京文化会館)では、都内の区市町村及び区市町村の指定する団体との共催により「フレッシュ名曲コンサート」を開催しています。

この事業は、都民の皆様に身近な地域で気軽にクラシック音楽等の名曲に親しんでいただく機会を提供し、併せて新進音楽家の発掘、育成を図ることを目的として開催するものです。指揮のご依頼とご協力をお願いいたします。

公益財団法人東京歴史文化財団
(東京文化会館)

Program Notes

ベートーヴェン

バレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲 op.43

天上界の火を盗み出し、人間に与えたことで全霊の神ゼウスに罰せられたプロメテウス。ギリシア神話において有名なこのエピソードは多くの画家や作曲家を刺激し、数々の主人公とした作品も多数生まれました。19世紀を歩んだ1801年、ウィーンで上演されたバレエ「プロメテウスの創造物」はそのひとつ。ここでのプロメテウスは地上の人間に命を与えて創造主となりますが、さまざまな神からの感情や欲望などを分け与えてもらい、2体の人間に受け渡します。

このバレエのための音楽担当として選ばれたのが、30歳を過ぎてはいよいよウィーン音楽界に名前を轟かせていたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)。同じ時期には交響曲第1番やピアノ協奏曲第2番、ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」など多くの名曲を生み出しており、作曲家としての才能が認められた時期だと評えるでしょう。バレエ上演前に演奏される「序曲」は演奏時間としては短めですが、有名な交響曲などで多くの人が知る、ベートーヴェン流「音のエッセンス」が凝縮されているような名作。簡潔的な和音で幕を開け、ゆったりとした序奏から音楽とパワワーが伝わる音楽へと続いていきます。

ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 op.102

そのベートーヴェンを敬愛し、ドイツ音楽の伝統を継承しながら型枠を打破する才能を認めざるを得なかったのが、北ドイツのハンブルクで生まれたヨハンネス・ブラームス(1839～1897)。ベートーヴェン同様にもっとも有名なソナタの曲を作曲しましたが、オーケストラを使った作品を多くして書き始めたのは30代半ばから(それ以前にも何作かはあります)。現在も人気のある4つの交響曲やヴァイオリン協奏曲、2つのコンサート用序曲などは、46歳を過ぎてから完成した未完作です。

1887年、54歳の時に完成・初演した「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」は、ブラームスがオーケストラを使った最後の作品となりました。それは実はオーケストラレション(楽器使用法)の技術は高度であり、すでに発表していた4つの交響曲を彷彿とさせる程多岐にわたる。それはその3つで表はすこの作品、交響曲第9番として着想していたという事実はあるのです。

そのアイデアを二重協奏曲に転用したきっかけは、ブラームスの盟友であるヴァイオリンist・作曲家、ヨーゼフ・ヨアヒムとの確執関係。その関係中、ブラームスはヨアヒムは「もっとも優れた打楽器の演奏家」状態となりましたが、ブラームスは誤解を解くため、ヨアヒムのヴァイオリンと「チェロのような低音」のブラームスとが協奏する作品を書いたと伝えられています。それは、2人と意識だったクララ・シューマン(ピアノist、ロベルト・シューマン未亡人)は、この二重協奏曲を「神秘的協奏曲」と呼びました。

曲は1887年の夏、アルプスの大自然に囲まれたトクセンという湖畔の街(スイス)で書き上げられ、同年10月にドイツのケルンで初演。ヴァイオリンはヨアヒム、チェロはヨアヒム故郷同郷出身のメンツバーであり、前年にブラームスのチェロ・ソナタ第2番を初演したロベルト・ホクスマン。そしてブラームス自身が指揮台に立ちました。曲は3つの楽章で構成されており、主人のリストの好意を中心として展開されますが、オーケストラもまた傑作に存在を主張します。

第1楽章(イ短調、ソナタ形式) 冒頭からすぐにチェロの独奏があり、ヴァイオリンも加わって対話を開始。オーケストラが強い土曜をはじめるとして奥底の静けさとなるメロディを演奏し、2つのソロ楽器が織り交織って交響的な音楽となります。

第2楽章(ニ長調、二重形式) 山吹のさくらさくら冒頭から、2つのソロ楽器が織り交梅メロディを演奏。集まる全体がやがて夢見心地の雰囲気にもなっています。

第3楽章(イ短調、ロンド形式) チェロ、そしてヴァイオリンが駆けて演奏するメロディが主体となり、ややゆったりとした調の土曜も加わり、音楽を盛り上げていきます。

